

大学等における価値創造人材育成拠点の形成事業
最終年度評価結果の総括

令和8年3月24日

大学等における価値創造人材育成拠点の形成事業
評価委員会

「大学等における価値創造人材育成拠点の形成事業」は、令和3年度から、社会人の創造性を育成するため、大学等においてデザイン思考・アート思考の養成や分野横断型の学修を通じ、創造的な発想をビジネスにつなぐ教育プログラムの開発や拠点の形成を行い、我が国の国際競争力および生産性の向上に資する「組織」と「人」の変革を進めることを目的として実施されている。

令和7年度の事業終了に伴い、選定された2件の事業について、「最終年度評価」を実施した。本最終年度評価では、事業期間全体を通じた成果、教育プログラムの定着状況、地域への波及効果、事業の自走化の見通し等について総合的に確認を行った。

評価結果は、2件とも「A：計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。」であった。いずれの大学においても、修了生をはじめとする拠点の構築を含め着実に事業が実施されており、本事業の目的である教育プログラムの開発や拠点の形成が着実に進められたと評価できる。

○各大学の評価の概要

<東京科学大学>

3大学による連携体制のもと、テクノロジー、アート・デザイン、ビジネスを統合した教育プログラムを構築し、産業界や外部専門家を含む多角的な評価体制を整備した。定量・定性の両面で評価など、PDCAサイクルによる継続的な改善や修了生の上級トレーナー化など、事業継続の基盤を構築している。また、地方拠点展開に向け、北九州市立大学との連携やFDワークショップの開催し、北九州市立大学の授業へ導入を進めた。一方で、安定的な受講者確保のための構造改善と成果の可視化が課題である。教育訓練給付金制度の適用遅延など応募減少に対応として、安定的な受講者確保に向けた構造的改革が求められる。さらに、今後は成果の見える化を進めるとともに、修了後の活動を中長期に分析できる評価体制を整備し、デザイン思考を基礎力として他分野との組み合わせによる応用・拡大を期待する。

<京都大学>

民間有識者を交えた産学連携体制、大学連携による座学と演習が連続した新たな学びの拠点形成が進められた。応募者数・受講者数は全期間で目標を達成し、受講者満足度や修了率も極めて高く教育プログラムの評価指標も十分に達成した。また、本事業終了後の一般社団法人による推進体制や経費シミュレーションなど、自走化するための準備ができているが、『学位プログラム構築』（既存体系への組み込み含む）や『横展開』については課題が残る。今後は、新しいデザインアプローチとの接続をより明確に示す工夫や修了生等による情報発信を強化し、プログラムイメージや学修成果をより把握しやすくすることが求められる。また、社団法人等を中心に経営基盤（運営資金やマネジメント人材等の確保）を確立し、継続的なサポートが着実に実行される取り組みを期待する。

本事業終了後においても、各大学が産学協働し、一体的な事業基幹となって取組を継続し、「価値創造の拠点」として、労働生産性の向上やイノベーション創出・牽引等に大きく寄与することを期待する。

令和7年度「大学等における価値創造人材育成拠点の形成事業」最終年度評価結果一覧

総括評価

区分	評価	件数
S	計画を越えた取組が行われ、優れた成果が得られていることから、本事業の目的を十分に達成できたと評価できる。	0
A	計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。	2
B	概ね計画どおりの取組が行われ、一部で十分な成果がまだ得られていない点もあるが、本事業の目的をある程度は達成できたと評価できる。	0
C	計画に沿った取組が行われておらず、十分な成果が得られているとは言えないことから、本事業の目的を殆ど達成できなかったと評価できる。	0
D	特に重大な課題があり、本事業の目的を全く達成できなかったと評価できる。	0

設置区分	大学名	事業名	評価区分
国立	東京科学大学	Technology Creatives Program (通称テックリ)	A
国立	京都大学	京都クリエイティブ・アッサンブラージュ (Kyoto Creative Assemblage)	A